

## 2 えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 中予

主旨：「スーパーグローバルハイスクール」「スーパーサイエンスハイスクール」「スーパープロフェッショナルハイスクール」「高等学校地域協働推進連携事業」等の指定校、各職業学科の代表校等、県立高校等における先進的な教育活動の発表と意見交換を通して、研究の普及と深化を図る。また、本コンソーシアムを、中学生や保護者、地域、教育関係者に公開して、各高校の特色ある取組を紹介し、本県県立高校で学ぶ魅力を伝える。

主催：愛媛県教育委員会

日時：令和3年1月26日（火）13：30～15：00

場所：オンライン開催（各学校）

参加者：県立高等学校・中等教育学校・関係国立高等学校の生徒及び関係教職員（本校からは発表者5名、一般参加者40名が参加）

内容：

- 13：30～13：40 開会行事
- 13：40～13：50 取組概要の紹介
- 13：55～14：10 ディスカッション①
- 14：15～14：30 ディスカッション②
- 14：35～14：50 ディスカッション③
- 14：50～15：00 閉会行事

参加生徒感想

- ・今回参加でき愛媛の魅力について新しい発見や学びがあり、とても刺激をもらいました。自分も地元の愛媛の魅力について考え、将来愛媛の役に立ちたいと思いました。
- ・自分の課題研究につながるような発表をしている取組を知れたので、今後に生かしたいと思った。
- ・それぞれが愛媛に関連した地元を盛り上げるプロジェクトを行っていて、着実に成果を出す姿勢に刺激を受けました。
- ・他校のユニークな研究を知ってとても新鮮であった。地元に向けて高校生にできる地域貢献をしていきたい。
- ・リーダー塾のオンラインでの活動の経験を生かして落ち着いて発表・ディスカッションを行うことができた。
- ・ディスカッションを通して、自分が行ってきた課題研究について考えさせられる良い機会となった。
- ・オンラインで実施するのであれば、地域を分けずに愛媛県全県下でした方がさらにいろいろな取組が知れて良かった。
- ・普段なかなか交流することができない他校の方から、自分たちの取組について意見を聞くことのできる良い機会となった。



## 3 令和2年度研究成果発表会

主旨：1年間の課題研究の発表を実施することで、それまでに取り組んできた課題研究の成果（問題解決力・思考力・分析力の向上）を示し、さらに発表を通じて高度なコミュニケーション能力・表現力・ディスカッション力を養う。

日時：令和3年3月4日（木）13：15～15：55

場所：愛媛県立松山東高等学校 体育館、アリーナ、第1教棟、第2教棟、特別教棟

参加者：1・2年生、教職員、保護者、GL運営指導委員、コンソーシアム委員、愛媛県教育委員会、大学関係者、企業関係者、県内高等学校関係者、県内中等教育学校関係者、市内中学校関係者、一般参加者

内容：13：15～13：30 開会行事 ① GL事業取組内容ビデオ上映 ② 教頭挨拶

13：30～13：45 代表生徒発表①「やさしい日本語と見えない国際化」  
発表者：綱崎 李紅（堤 元子先生講座）

13：45～14：00 代表生徒発表②「How to increase the number of international travelers in Ehime」  
発表者：笹岡 佳穂、谷岡 沙恵 石橋 審平、重見 萌絵、越智 勇満  
(檀 茂美先生講座)

14：10～15：30 松山東High School Society

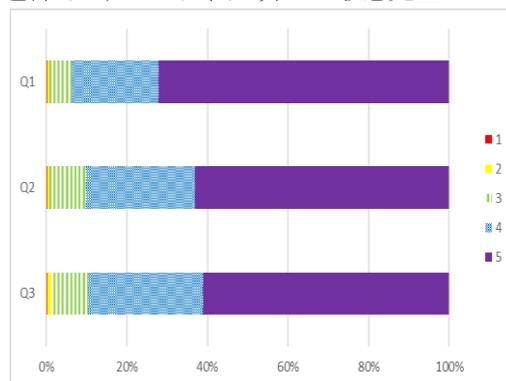
① 1年生ポスター発表

② 2年生シンポジウム

15：40～15：50 観光甲子園準グランプリ作品発表 「イロタビー色に恋する愛媛旅ー」

生徒評点：

- Q 1. 課題研究を通して、知識を深め視野を広げることができたか。
- Q 2. グローカルな課題を発見することができたか。
- Q 3. 発表会を通して、自己との接点を見つけることができたか。



生徒感想：

- ・ポスター発表は、何度も練習していくうちに上手に言えるようになったので、よかったと思う。自分が知らなかったことをたくさん知れて、よい機会だと思った。図や写真、グラフなどを有効に使ったポスターが多く、学べるが多かった。研究を通じて、自分の中でも課題がはっきりし、今やるべきことが分かった。将来、日本や世界を担う世代として、いい経験ができた。
- ・今まで知らなかった自分が住んでいる地域の名物や魅力をたくさん知ることができて、愛媛にはまだまだ未知の部分が多いことが分かった。これから今回知った店等を訪れ、おいしいものも食べつくし、もっと愛媛を堪能したいと思った。
- ・東校生は目の付け所が違い、いい刺激をもらいました。外国人に誇りたい場所がありますか、と聞かれたとき、私にとって外国人に誇れる場所とはどこなのだろうと思った。イロタビで紹介されていたような愛媛の素敵な場所に自分も行ってみたいと思った。
- ・いろいろな班の発表を聞くことで、様々な視点から愛媛の国際化について考えることができた。愛媛には良いところもたくさんあるが、改善すべき点もたくさんあると分かった。今後の愛媛県発展のために自分にできることは何かと考え、考えを深めることができた。まずは地域の行事に積極的に参加することから始めたいと思う。
- ・前回のポスターセッションは聞くだけだったが、今回は聞く+話す側だったのですごく楽しかった。たくさんの方が自分のスピーチを聞いてくれてとてもうれしかった。
- ・今回ポスターセッションで環境問題について深く学ぶことができました。人間の営みによる被害が大半であることを知り、危機感を感じました。我々の生活が生態系に被害を及ぼしていることを自覚し、できるだけ環境負荷の低い生活をしていくことが必要だと感じました。
- ・発表を聞く中で、また自分自身が研究課題に取り組む中で、日本や愛媛についての様々な課題に気づくことができた。それぞれの発表で聞いたこと、考えたことなどをもとに、将来の社会を担っていけるような人材を目指したい。
- ・愛媛県には様々な課題があり、それぞれの解決策についても、自分が思っていたものとは異なるいろいろな考え方があり、自分の考え方を通し、より深めることができた。愛媛を活性化するためにはまだまだ様々な課題が残されている。私たちにできることがどれくらいあるのか考え少しでも地域の活性化につなげていきたい。
- ・「習っていないは通用しない」という言葉が心に残った。今までは先生に教えてもらうのが当たり前だったが、研究を進めるためには自分自身の知りたいという気持ちが大切で、より良い研究につながるのだと感じた。2年次からのGLでは、知りたい気持ちを精一杯行動に移していきたい。
- ・発表会に参加して、絶対に学校の授業だけでは得られないような様々な視点からの発表を聞くことができ刺激を受けました。2年生のシンポジウムでは医療工学に関する発表を聞くことができました。特に子宮がんワクチンの発表では、直接自分たちに関係のある話を聞いたので、この後、自分でも詳しく調べてみたいと思いました。
- ・自分と異なるものの見方をしている人の意見を聞くことで、新たな考え方を持つことができました。様々な視点から物事を観察することで社会の問題点を発見できると感じました。私は医療分野の課題研究をしています。コロナウイルスの影響で逼迫している医療業界を、高校生の私たちの新たな視点をういて助けることができたら良いなと思っています。
- ・各講座で様々な取り組みをしていました。自分の知らなかったことを知る機会にもなって、充実した時間になったと思います。また、日常生活を通じて自分が気づいていなかったことに目を向けている人たちもいてとても感心しました。広い視野を持てるように様々な所に目を向けていきたい。自分の課題研究にも生かせることはどんどん生かしていこうと思う。

- ・松山の現状、課題といった点がよく分かりました。特に、外国人に対する（我々の）配慮の足りなさを実感しました。これからは、外国人とコンタクトを取る際、「やさしい日本語」で対応しようと思いました。また、地元の魅力を再発見することができました。自分も観光甲子園のように、魅力を全国に発信していきたいと思っています。
- ・私はGL事業の授業を取っていないので、ずっと聞いている側でしたが、とても興味をもって聞くことができました。自分が1年生のときには水について調べていたので、国際的な問題や環境問題は自分もやってみたかったなと思いました。
- ・去年、自分は難民のことについて学び、残念ながらポスター発表がないまま終わりました。今年は様々な方向からのグローバル化や地域での取り組みがポスター発表を通じて学びました。英語が得意ではないので、もし、外国人と関わる機会があれば、今日学んだ「やさしい日本語」を意識して、寄りそって接したいと思います。将来、少しでも愛媛の力になれるような、行動、仕事がしたいです。
- ・自分の研究していない未知の分野を知ることができてとても面白かったです。知らなかったことを知ること、その問題を解決する大きな一歩となる大切なことだと思います。「知って」満足するのではなく、今日学んだことを解決するためにどう動くのか、毎日の中で考えながら生きていきたいです。また、色々な人の課題研究の方法を知って、自分の研究に取り入れたいことも見つかったので、来週（今年度最後）のGLの時間に実践したいです。



#### 参加者感想：

- ・各々のプレゼンテーションで堂々とした姿がたくさんありました。視聴者からの質の高い質問が多く、回答もしっかり調べられていました。
- ・どの生徒さん達もテーマに沿って工夫をこらした発表が良くできていました。
- ・模擬国連が面白かったです。ゼロから考えさせるのはなかなか難しいけれど、国連というステージや複数の国の選択をこちらでしてやると、しっかりやれていました。子ども達はその気になる仕掛けづくりの大切さ、それができるだけの教員の力量の必要性を感じました。
- ・発表者はもちろん、視聴者の態度が素晴らしいと思いました。良い雰囲気の中で行われていました。
- ・聴衆が1年生なので、照れもあるのかプレゼンが緩い場面が見られた。2年生がもっと聞けば緊張感が出るのかと思いました。
- ・廊下でのプレゼンは、動線がぶつかるために話しくかかったり、聞きにくかったりしたことが残念でした。人の流れを改善していくと良いと思いました。
- ・レベルの差はあるものの、生徒さんが設定したテーマに対して、コンパクトに上手くまとめられていた。生徒の皆さんのアンテナの高さや問題意識の高さがよく表れていて、とても見応えがあった。
- ・グローバル・グローカルの視点から実に様々な発表があり、質問への応答や質問者への対応も良くできていたと思います。高校1年生のフレッシュで楽しいアイデアも盛り込まれた発表に東高生の柔軟な発想力や前向きな姿勢が良くあらわれていました。
- ・大変興味深い内容ばかりでした。大学レベルの研究内容のものもありましたが、とても分かりやすく発表スライドにまとめられていたと思います。質問する生徒もするどい質問をされていてさらに盛り上がっていたと思います。
- ・年々発表内容のレベルが上がってきているように思いました。また、質問をする時間の前に、一旦皆さんと相談する時間を作っているため質問が活発に行われていると感じました。
- ・自分の興味・関心のある分野についてよく調べられていたと思います。
- ・発表を踏まえての討論がなされていました。挙手しての発言や質問、それに対する回答、その応答ができる力に感心しました。
- ・地域活性化から観光・防災という一見全く異なるテーマのように思えるが、「地方を守る」という視点で、それぞれの発表が結びつき、また発表会後のシンポジウムもしっかり生徒同士での議論ができていた。
- ・どのシンポジウムも問題意識をしっかりと持ち研究を深めしっかりと発表でした。質疑への対応が不慣れた人もいたので、さらに体験をすることが大切だと思います。
- ・1年生よりもレベルがぐっと上がって、質疑応答のやり取りも非常に活発で良かった。人に説明するための工夫がよくされていて、論理構成も良いため分かりやすく説明できていた。
- ・SGHの時から関わらせていただいています。益々立派な発表になってきていると思いました。1、2年生がしっかりと先輩の発表を聞いて自分が何をしたいか早い時期から意識できているからだと思います。

- ・生徒達の皆さんが積極的に参加していたので、非常に充実した発表会でした。
- ・多くの気づきがありました。習うのではなく自ら探究する力を、どこまでも伸ばしていただきたい。
- ・どの会場でも生徒が積極的に手を挙げ発表している姿がとても印象的でした。
- ・質の高い学びとその成果を拝見することができました。
- ・各自・地域の課題に対して高校生としてコミットできる範囲で、自分には何ができるのか、しっかり解決案を提案できていました。
- ・GL生が他の発表を見ることができないことがもったいないと思いました。
- ・全体として生徒の皆さんのレベルの高さに驚いた。年々着実にレベルアップしているように感じており、先生方、生徒の皆さんが相当努力されたのだらうと思います。
- ・コロナ禍にあっても、外向きの体験型研修などに代わる内容のある活動がなされていたと感じた。

2年生シンポジウム議事録：

**I 「世界から学ぶ日本の改善策** (司会：松岡美響、石川太一 記録：大谷安奈)

**発表① 「印象語から分析する北欧デザイン」** 発表者 井上美咲

**【要旨】** 北欧と日本のデザインについての印象を愛媛県の男女を対象としてアンケートを行った。二つのデザインには、あたたかい、優しいといった印象の共通点があった。北欧デザインを日本の生活に生かすための案として、伝統工芸品や空き家のリノベーションなどがある。

**【質疑応答】**

- Q. 印象語として「直線的」と「曲線的」をいれたのはなぜか。  
 A. 北欧デザインは不規則で手描きのようなもので、日本のデザインは規則的という特徴があるので「直線的」と「曲線的」という印象語につながると思った。  
 Q. 「直線的」と「曲線的」という二つの観点から見た北欧と日本の違いはあったか。  
 A. 北欧デザインのほうは曲線的と感じる人が多く、日本のデザインのほうは直線的と感じる人が多かった。

**発表② 「私たちの過去→現在→未来どうする？」** 発表者 杉野若葉

**【要旨】** 2030年までにSDGsを達成することが世界の目標とされているが、現在は解決には程遠く、様々な問題が起こっている。それらを解決していくには、私たち伝える側が一方的に解決策を提示するのではなく、能動的に興味を持って動くことが重要だ。

**【質疑応答】**

- Q. 宗教のアイデンティティをもちつつグローバル化を目指すにはどうすればいいと思うか。  
 A. 宗教やその国の現状を能動的に知り、理解して共生社会へ向けて皆で話し合っていく必要があると思う。  
 Q. 「知るだけでなく行動しないと意味がない」というような考えについてどう思うか。  
 A. もちろん知ることも第一歩だが、そこから自分で考えるなどして動いていかないと目標達成に近づけないと考えている。

**発表③ 「Why will the number of immigrants coming to Japan increase?」** 発表者 渡邊麻梨亜

**【要旨】** 移民が今後日本で増えることが予想される。その理由は、少子高齢化問題、国内の外国人労働者の増加、国際的な移民の流れなどにある。なぜ人々が移住するのかにもさまざまな目的がある。私たちは移民受け入れ賛成派と反対派の意見のバランスを取り移民と共生していく必要がある。

**【質疑応答】**

- Q. 移民の増加によるデメリットとして日本人の雇用率の低下とあったが、少子高齢化によって現役で働く人が減っている今の日本の現状に外国人の労働力が加わることでプラスに働いていくのではないか。  
 A. 日本人の雇用率と外国人の労働力の増減による影響はあまり関連していないため、別問題として考える必要があるのでプラスとして働くとは言えないと思う。

《Discussion》

- Q. 国民性の違いによる新型コロナウイルスへの対策の違いはどのようなようであるか。  
 A. 中国は許可されるものと禁止されるものをはっきりさせ、守らなかった者には罰金を科すなどきちんと規制を設けている。  
 A. 台湾はSARSの経験もあつてかなり早い時期から対策を講じ、ITなども駆使して感染者の増加を防いだ。

A. アメリカはコロナウイルスの対策よりも経済活動を優先させてしまい、結果感染者を増やしてしまった。

A. スウェーデンも経済優先で外出自由とした。

A. 日本は厳しい規制を設けるでもなく、経済優先で外出自由にするでもなく、個人の判断にすべて任せるといった趣旨の対策をしており、完全に後手に回ってしまっている。

## II 「いろいろな角度から地方を守る」

(司会：隅田真央 川吾奈々子 記録：中川優依)

### 発表①「久万高原町の活性化」

発表者 小倉欽大

【要旨】衰退の著しい久万高原町の商店街に関して、アンケート調査などからその衰退の一因が車社会化にあることがわかった。しかしその解決だけで衰退を止められる可能性は限りなく低い。そこで近隣地域の事例を参照すると、内外両面への取り組みが必要だと分かった。よって、コンパクトシティ化と中規模施設の造営の二つを提案する。

#### 【質疑応答】

Q. たくさんの土地があるにも関わらず、施設建設に踏み出せないのはなぜか。

A. 人口が少なく、税金収入があまりないから。総じて『町の力』がない。

Q. 交通網の整備はできているのか。

A. 道路自体は新しく整備されているが、公共交通機関があまり発達していない。コミュニティバスなどを導入するなどの対策を行わなければならない。

Q. 高齢ドライバーへの対策はあるか。

A. 町が運転免許の自主返納をすすめている。車なしでも生活できる環境を整える必要がある。

Q. 住民同士の集いはあるか。

A. まちなか交流館という施設でワークショップ等を行っている。



### 発表②「松山&松山」

発表者 松本まどか

【要旨】愛媛県松山市と台湾の台北市は友好交流協定を締結しており、この二つの市の交流は深まっている。アンケート結果より、東高生は、台湾の人と交流したいという気持ちはあるが、実際には少し抵抗があるのではないかと思われる。その理由として、他言語を話すことへの不安などがあると推測される。これを改善するために、簡単な観光英語や中国語を学ぶ場をつくるべきである。

#### 【質疑応答】

Q. 日本人ガイドの不安を取り除くために、実際どのようなことをすればよいか。

A. 講習会を開く。講習会に参加しにくい人のために、街に観光英語で書かれた看板を設置する。観光英語で書かれた県のホームページを作る。

Q. どのような人を対象に動画を作ったか。

A. 台湾の人に愛媛の魅力を知ってもらうだけでなく、愛媛の人にも台湾との交流があることを知ってほしい。

Q. 台湾の高校生との交流は、どのようなことをするか。

A. 部活動で日本の文化を学ぶ、授業に参加してもらう。

### 発表③「私たち防災講座が行ったこと」

発表者 竹ノ内悠

【要旨】松山市の防災に対する取り組みは、全国でもトップクラスである。しかし、地域の避難訓練に参加しない人が多いことなど、まだ多くの課題がある。そのような問題を解決するために、地域ごとのつながりを深め、情報共有の手段を確保していくべきだ。

#### 【質疑応答】

Q. 回覧板を活用すること以外の情報共有の方法はあるか。

A. 地域住民同士での情報共有、コミュニケーションが挙げられる。

〈Discussions〉

テーマ：訪日観光客の防災危機管理

① 言語の違いについて

[問題点] ・避難所などに関する大事な情報を読むことができない。

- ・周りとのコミュニケーションをとることができない。
- [解決策] ・絵や音などの言語以外での呼びかけ
- ・ジェスチャーで伝える。
- ② 避難経路について
- [問題点] ・どこへ逃げるか。
- ・どう逃げるか。
- ・避難経路が危険な状態とき、混乱が起きる。
- [解決策] ・多言語対応看板を設置する。
- ・空港に多言語対応の防災マップを置く。
- ・多言語対応の防災アプリを作る。
- ・日本人が外国人に、災害について考える機会を与える。
- ③ 避難後の対応について
- [問題点] ・文化的な問題において非常食をどうするか。
- ・避難所のルールを理解してもらえないか。
- ・言語の違いによって、情報を共有することができない。
- ・自分の国に帰ることができない。
- [解決策] ・多文化対応の非常食を用意しておく。
- ・避難所に多言語対応ブースを作る。
- ・マニュアルを作成しておく。
- ・心のケアをすることができるスタッフを置く。
- ・外国人に、安全な地域に行ってもらおう。
- ・位置情報サービスを活用する。

### Ⅲ 「愛媛の産業の未来」

(司会：松下卓央、芳野亜美 記録：乃万智美)

#### 発表① 「シークワサーの調理加工研究～愛媛の地域活性化を目指して～」

発表者 菊池光 林奈々子 安藤奈穂 池田光希

【要旨】シークワサーリーフパウダーだけでなく、果実の新たな活用方法として、実を使ったマーマレードを作った。大会等を利用して周りに発信していくことでシークワサーの消費を増やし、ごみの削減、地域活性化につなげようとしている。

#### 【質疑応答】

- Q. 地域活性化のため沖縄のシークワサーではなく、愛媛県産のものを使うべきでは？
- A. 大会に向けては沖縄産のシークワサーを使っている。しかし、この大会が終わった後などに柑橘国愛媛ならではの活用法を作れるだろう。
- Q. 研究でシークワサーが黒ずんでしまったことの改善点は？
- A. 皮の量を減らすことで、にごりがなくなるのではないかと考え、研究を進めている。

#### 発表② 「男女の賃金格差」

発表者 河津遥架

【要旨】労働環境で発生している問題をSDGsの視点から改善させる。目標の5、8に関連して研究した。男女の収入差の改善のため、様々な法律が作られているが、なかなか解決されていない。Cybozuに行き、インタビューを行い、具体的な解決策の調査を行った。また、動画作成も行った。

#### 【質疑応答】

- Q. 法律では是正されないなら法律に問題があるのでは？
- A. 賃金格差是正のためではないからこの問題に関する法律を作るべきである。
- Q. 役割や役職を得られるためにはどうすればよいか？
- A. 女性はハードルが高いため、そのハードルを低くしなければならない。

#### 発表③ 「成長したい植物 VS 成長阻害剤」

発表者 石崎芽唯

【要旨】近年、農業従事者の減少や高齢化が問題となっている。そうになると、一人ひとりの負担が大きくなってしまう。そこで活躍が期待されているのが、ドローンなどを用いたスマート農業である。しかし、ドローンを用いた農業散布を行った場合、目的の植物以外にも散布してしまう可能性がある。今回は、「農業の影響を画像で診断することができるのか」を実験して調査した。

#### 【質疑応答】

- Q. 今回の研究結果をどのように実際の農業に生かすことができるか。

A. ドローンで農業散布の影響を調べられるため、この結果により大規模な農業散布ができると思う。

#### 発表④ 「脱プラスチックの実現は可能か」

発表者 谷本遼太

【要旨】 現在、日本ではプラスチックの過剰利用が問題になっている。松山容器へ訪問し、家庭ごみのリサイクルについての調査を行い、費用がかかるためあまり行われていないことが分かった。大企業はメリットが多いため、脱プラスチックへの取り組みを行っているが、小さい会社や地方では行われていない。レジ袋の無料配布を禁止した京都府亀岡市についての調査を行った。脱プラスチックの実現のためには消費者の意識が大きく関わっているのではないかと思う。



#### 【質疑応答】

Q. 地方の企業の動きが少ないわけは？

A. 中小企業は意識が低く、費用の面など、大企業に見られない課題があるから。

#### (Discussions)

「愛媛の産業の未来についての意見交換会」

発表者の意見

発表①：愛媛では農業の衰退化がみられる。第一次産業の割合が低い。普段は食べない部分である柑橘の葉を活用して商品化されれば、廃棄物の削減につながる。それらによって、産業についての問題の解決に少しは役立つのではないかと思う。また、愛媛県では、第六次産業(第一次産業、第二次産業、第三次産業の一体化)の支援が行われている。

発表②：愛媛の雇用者のうち女性の割合は全国平均より高い。しかし、雇用者のうち女性の割合は、平成27年度時点で46.7%と半分を満たしていない状況にある。また、女性の管理的職業従事者の割合は17%となっている。今後、この問題を解決していくことで、地域活性化や地方の経済成長を見込むことができると思う。

発表③：農業従事者の減少が現在課題になっている。柑橘王国ならではの山の傾斜を活かしたドローンの活用により、農業をしやすくなるだろうと考える。また、ドローンは入手しやすいため、より農業の活発化が期待される。

発表④：現在、持続可能な社会の実現に向けて様々な取り組みが行われているが、課題もたくさんある。企業、自治体だけでなく、市民が行動を起こさなければならない。また、その際には、先例に基づいて実行することが必要だ。

聴衆からの意見

- ・農業の活発化などだけではなく、後れを取っている交通面の発展にも力を入れないといけないと思う。
- ・SDGsは産業の発展に関わっていることが分かった。愛媛の雇用、ごみ問題などについて取り組めることがあるとわかって、都会に比べると遅いが、進歩する可能性もあると感じた。
- ・自分たちの気づきに頼るだけでなく、法律や条例など全体の決まり事をつくる必要があると思う。
- ・第六次産業の促進に同意する。今回発表にあったスマート農業、シークワサーの加工、雇用環境問題、ごみ問題等が生産、加工、販売の各プロセスに関わっていると思った。そのため、それらの一体化が大事だと思う。
- ・行政などの取り組みだけでなく、市民一人ひとりが意識することが大事だと思う。

まとめ

現在、愛媛の産業では農業従事者の減少、雇用問題、ごみ問題など様々な問題が起こっている。それらの解決のためには、行政や自治体の積極的な活動が大事であるが、市民一人ひとりが意識を持つことがより必要だ。高校生の我々がこれらの問題の解決に尽力することで、将来の愛媛の産業がより活性化されるだろう。

#### IV 「未来へつなげ～日本の工学と医療～」 (司会：井出麻友 山名里沙 記録：村上由羽)

#### 発表① 「光と糖度」

発表者 橋村瑞希

【要旨】 分光法は、物を破壊せずに内部の状況を測定できる。そこで、破壊せずに柑橘の中の状況を測ることができるのではないかと仮説を立てた。一つ目の実験で、みかん、デコボンともに熟し具合によって同じような変化をした。それからそれが糖度によるものなのかどうかを二つ目の実験で確かめたところ、柑橘の糖度と光量の変化には関係があることが分かった。

#### 【質疑応答】

- Q. 実際にどれくらい糖度があるか分かるのか。  
 A. この研究からは予測できないが、様々なみかんを用いて比較するとできると思う。  
 Q. 分光法の他の活用方法は何か。  
 A. 犯人を調べる時や、石油を分ける時に使える。  
 Q. 今何に使われているのか。  
 A. 出荷するときの仕分けなどで既に使われている。

発表②「神の手を借りたい医療現場に革命を！～VR・ARの多角的な活用法～」 発表者 大野峻平

【要旨】現在の医療の課題として、1.人口に対する若手医師の数が減少傾向、2.地域によって医療サービスに格差がある。ということが挙げられる。これらを解決する手段として、新人育成、治療、協力体制の構築を可能にするVR、AR、MRが利用できる。しかし、日本での普及は不十分である。

【質疑応答】

- Q. 外国では普及しているのか。  
 A. 医療以外でも活用できるので、日本と比べたら発展している。  
 Q. 日本で普及していない原因は何か。  
 A. 新しいものは恐いという考えがあり、患者への意識が希薄になるとも捉えられるから。

発表③「打たせてほしかったワクチン」 発表者 渡部愛生

【要旨】ワクチンは治療薬に比べて効果が見えにくく、副反応が注目されやすい。そのためマスメディアの偏った情報提供により、ちょうど私たちの世代で子宮頸がんワクチンの積極的勧奨が中止された。しかし、実際の副反応の可能性は低い。日本ではワクチンの存在すら知らない人も多いが、まず選択権を得るためにも、知る機会を増やすことが一番大切である。

【質疑応答】

- Q. マスメディアの在り方についてどう思うか。  
 A. 偏った情報が多いのが現状である。公平な報道を心がけてほしい。

《Discussions》

- Q. 分光法を使って調べたいことは何か。  
 A. 人の体で使えたら、医療にも生かせるのではないかと。  
 Q. 医療現場以外でのVR・ARの活用方法は何か。  
 A. もう少し小型化して激しく動き回れるようになれば、スポーツで使える。  
 A. 臨場感のある避難訓練。  
 A. 新しい発想力にもつながる。  
 Q. 子宮頸がんワクチン接種を政府が積極的に推奨していないことについてどう思うか。  
 A. 副反応のリスクは少ないので、女性のことを思うと勧めるべき。  
 A. 国が勧めるとSNSなどを通してさらに偏見が広がってしまう恐れがあるので、積極的に勧めず、情報提供を行うべき。  
 A. 他のワクチンでも少しは副反応が出るので、そこは考慮してうつべき。

V 学校環境のグローバル化

これまでに挙げた内容の他に、以下のような方法で学校環境のグローバル化を推進した。

	内容
1	SGH部の活動
2	各種交流
3	各種大会参加・入賞
4	市内高校生交流会・勉強会
5	第5回中四国高校生会議

1 SGH部の活動

(1) 部の概要

参加生徒数：39人（1年生：18人、2年生：12人、3年生9人）

活動概要：英字新聞を使って英語力を鍛えながら、海外の高校とオンラインで交流したり、在県の外国人の方を招いて交流したりする国際協力活動、フェアトレード等の校内啓発活動、近隣の学校の生徒を集めて交流やSDGsの学習などに精力的に取り組んだ。

## (2) 今年度の活動内容

### ア 全員参加の活動

- (ア) International Day を企画運営し、外国人を招いての国際交流活動を熱心に行った。(全7回)
- (イ) 市内高校生交流会・勉強会を企画運営し、SDGsの問題について市内の高校生と学んだ(全8回)
- (ウ) フェアトレードの啓発と、商品の販売の機会を企画し、活動に熱心に取り組んだ。(全3回)
- (エ) フードドライブを行い、まつやま子ども食堂へ届け、ボランティア活動を行った。
- (オ) ハワイバプテストアカデミー高校とオンライン交流を熱心に行った。
- (カ) シンガポール・ウガンダ・アメリカなどの高校生にビデオレターを作成し、送付した。(全4回)
- (キ) 第5回中四国高校生会議の企画・運営を行い、近県高校の活発な交流を実現させた。(1/30、31)

### イ 有志での活動

- (ク) 令和2年度「世界との対話と協働：アジア・オセアニア高校生フォーラム」(7/29～31)
- (ケ) えひめ教育の日推進大会・推進フェスティバル(10/24)
- (コ) 令和2年度愛媛県高校生英語ディベートコンテスト【優勝・準優勝・ベストディベーター賞】(10/30)
- (サ) ロシア日本語履修高校生オンライン交流プログラム(11/14、15)
- (シ) 令和2年度愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 研究発表の部【最優秀賞】
- (ス) 令和2年度愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 日本語意見発表の部【優秀賞】(12/4)
- (セ) 全国教育模擬国連大会(AJEMUN)(1/10、11)
- (ソ) 令和2年度(第38回)四国高等学校国際教育生徒研究発表大会 研究発表の部【優秀賞】(1/13)
- (タ) えひめスーパーハイスクールコンソーシアム(オンライン)(1/26)
- (チ) Glocal High School Meeting 2021(全国高等学校グローバル探究オンライン発表会)【金賞・審査員特別賞】(1/30)
- (ツ) 観光甲子園2020 訪日観光部門【準グランプリ】(2/7)
- (テ) 第1回みきゃんカップ英語ディベートコンテスト【準優勝・第3位】(3/13)
- (ト) 春休み語学研修プログラム(オーストラリア)(3/22～26)

## 2 各種交流

### (1) 「EUがあなたの学校にやってくる」開催

欧州連合(EU)とその加盟国の大使館員から直接話を聞くことができる「EUがあなたの学校にやってくる」の講義を2年生対象に実施し、グローバルな視点の育成を図る。

期 日：令和2年11月9日(月) 15:40～18:00

会 場：本校 体育館 会議室

参加者：2年生全員(体育館)、希望者(会議室)

講演者：リトアニア共和国 ゲディミナス・バルブオリス (Mr. Gediminas Varvuolis) 駐日特命全権大使

### 生徒感想

- ・今回の講演でEUのことを知るだけでなく、EUを身近に感じるようになりました。国境を越えて団結することは決して簡単ではありません。しかし、講演の中で「EUはサッカーチームのようなものだ。」と言われたのを聞いて、それぞれが自分の果たすべき役割を果たしていくことが必要なのだと改めて感じました。今までは学校の授業で軽く触れるのみだったEUについて詳しく知ることが出来ました。また、リトアニアの景色も美しかったです。ヨーロッパには是非とも行ってみたいです。



・リトアニアを中心としたさまざまなヨーロッパのことを学ぶことができました。EUが世界でどのような立場にあって、どのようなことをしているのかをたくさん知ることが出来たと思います。リトアニアと日本の結びつきは自分が思っていたよりも深く、杉原千畝さんのことも印象に残りました。ヨーロッパの国については今までは少し興味がある程度でしたが、機会があればぜひ訪れて色々なことを肌で体験したいと思います。世界で何か貢献できるようになりたいし、そのきっかけとなることを見つけていきたいと思っています。



- ・EUの様々な分野での活動を知ることができ、より身近に感じることが出来ました。多種多様な文化の人々が協力してお互いの発展を支援していて、素晴らしいことだと思いました。また、EUに加盟するには条件があることには少し驚きました。授業であまり触れられないことも教えていただきとても興味深かったです。ヨーロッパと日本は色々な部分で関わっていることを知り、ほかの加盟国についてももっと勉強をしたいと思いました。
- ・いくつかの国がまとまって協力したり、EU独自の制度があったりして、日本との違いを意識しながら聞くのが面白かったです。また、EUの世界での役割にも興味がわきました。EUは積極的に留学を進めていると聞き、文化や言語を学ぶためにいつかヨーロッパへ留学したいと思います。内容とは関係ありませんが、この講演はリスニングの練習にもなりました。外交を担う人の英語を聞くことが楽しかったです。
- ・リトアニアの方とお話をしたことがなかったので新鮮でした。全権大使さんということで愛国心や他国とのつながり、このコロナ禍でのEUが果たすべき役割など幅広く学ぶことが出来ました。文化に対してNo Judging、すべてに対してcuriousであることの大切さ等、座談会ならではの内面的なことが聞いて本当に良かったです。改めて、語学を学ぶ意欲が湧いてきました。これからも世界の様々なところに目を向けて、将来に向けたたくさん勉強をしていきたいです。

### 3 各種大会参加・入賞

#### (1) 英語ディベートコンテスト

- ・令和2年度 愛媛県高校生英語ディベートコンテスト 優勝 (Bチーム) 準優勝 (Aチーム) ベストディベーター賞

#### (2) 英作文・英語エッセイコンテスト

- ・第59回 全国高等学校生徒英作文コンテスト 優秀賞1名、優良賞1名、入選4名、2020年度学校賞

#### (3) 研究発表・プレゼンテーション

- ・令和2年度 愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 研究発表の部 最優秀
- ・令和2年度 愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 日本語意見発表の部 優秀
- ・令和2年度 四国高等学校国際教育生徒研究発表会 研究発表の部 優秀
- ・Glocal High School Meeting 2021 (全国高等学校グローバル探究オンライン発表会) (金賞・審査員特別賞)
- ・観光甲子園2020 訪日観光部門 準グランプリ

### 4 市内高校生会議

他校との交流の機会が少ない市内の高校生が集まり、各学校での活動について発表したり、世界の問題に対して意見を交換したりすることによって、グローバルリーダーとしての資質を養う。企画・運営は全て生徒が行う。

毎回SDGsの課題を一つ取り上げ、その分野に精通したゲストを招き、話をさせていただいたり、生徒のディスカッションにコメントをいただいたりする。専門家の口から出る本物の話は大変興味深く、生徒達の心に残るものである。

#### 【実施記録】

- ・第1回 SDGs 4 (校内) (4/25)

「SDGs 4教育キャンペーン」の教材を使い、各政党ごとの方針を比較し、政治や選挙に対する関心を高める。

- ・第2回 SDGs 4 (オンライン) (6/14)

新型コロナウイルス感染症のために138カ国で学校が閉鎖され、13億7千万人の子供の学校教育が影響を受けていることについて知り、考えること、等

- ・第3回 SDGs 1 (7/26) ゲスト：社会福祉士 野中玲子先生  
世界中で深刻化する子どもの貧困と、それがもたらす社会的損失、等
- ・第4回 SDGs 11・14 (8/11) ゲスト：県内在住 ALT10 名  
私たちが誇る道後の良さを伝えるには、持続可能な観光名所であるために、等
- ・第5回 SDGs 12 (9/19) ゲスト：マザーアース店主 小川万里子先生  
フェアトレードとサステナビリティ、エシカル消費について、等
- ・第6回 SDGs 5 (11/7) ゲスト：愛媛県議会議員 武井多佳子先生  
女性の経済的自立と社会的地位について、女性のリーダーシップについて、等
- ・第7回 SDGs 8 (12/13) ゲスト：いよぎん IRC 友近昭彦先生  
新型コロナウイルス感染症による愛媛のテレワークの増大とその功罪、等
- ・第8回 SDGs 10 (3/6) ゲスト：英会話スクール AMIC 校長 玉井里美先生  
世界の何を見る？世界中の人と仲良くするための日本人としての生き方、等

## 5 第5回中四国高校生会議

特徴：生徒の発案から始まった事業。今年も本校SGH部が主催として計画立案・司会進行を務めた。

主旨：都市部の高校に比べ、他校との交流の機会が少ない地方の高校生が集まり、自分たちのGL事業や各学での活動について発表したり、世界の問題に対して意見を交換したりすることによって、グローバルリーダーとしての資質を養う。さらに、共通のテーマについて考えを深めることでお互いを刺激しあい、将来グローバルに活躍できる人材としての資質を高める。

日時：令和3年1月30日（土）、31日（日）

場所：オンライン開催のため各参加校教室

参加者：生徒95名、教員11名

参加校：①愛媛県立松山南高等学校（2名） ②愛媛県立松山北高等学校（23名）  
③愛媛県立松山中央高等学校（8名）④愛媛県立宇和島南中等教育学校（6名）  
⑤愛媛県立松山西中等教育学校（6名）⑥愛媛大学附属高等学校（25名）  
⑦愛媛県立松山東高等学校（36名） 計7校

内容：テーマ「私たちの生まれ育った街をずっと大事にしたい！」

### 【1日目・1/30（土）】

- 13：15～13：30 受付（オンライン接続）
- 13：30～14：30 アイスブレイキング
- 14：30～15：30 アクティビティーⅠ（参加各校の学校紹介・活動報告）
- 15：30～17：00 アクティビティーⅡ（プレゼンテーションコンテスト）
- 17：00～18：00 アクティビティーⅢ（三角ディベート練習）

### 【2日目・1/31（日）】

- 08：45～09：00 受付（オンライン接続）
- 09：00～10：00 講話（松山市のまちづくりについて  
松山市役所 坂の上の雲まちづくり部 まちづくり推進課 矢野幸平氏）
- 10：00～12：00 ディスカッション（SDGs11 住み続けられるまちづくりを）
- 12：00～12：40 昼食
- 12：40～14：00 アクティビティーⅣ（プレゼンテーション発表会）
- 14：00～15：00 アクティビティーⅤ（三角ディベート大会）
- 15：00 閉会

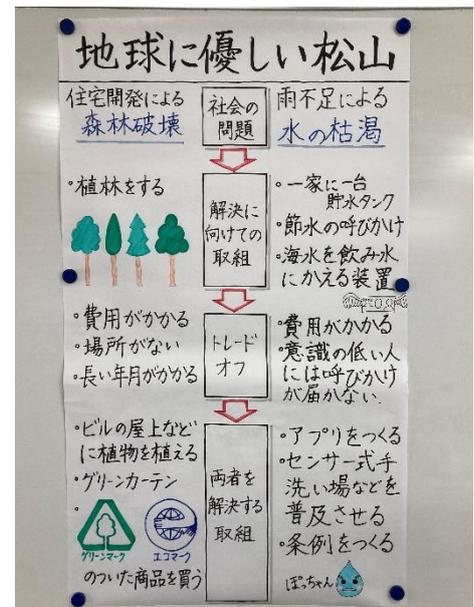
発表内容：

テーマを七つ設定し、各グループが興味のあるものについて【①そのテーマから発生する社会的課題 ②その課題に対する解決策 ③解決することで発生するトレードオフ ④課題とトレードオフをどちらも解決する解決策】について、高校生らしい自由な発想をまとめた。

テーマ：環境

社会的課題	
1 森林破壊	2 水の枯渇
解決策	
1 植林	
2 貯水タンクの普及 節水の呼びかけ 海水を淡水に変えるシステムの開発	
トレードオフ	
1 費用がかかる 場所がない 長い年月がかかる	
2 費用がかかる 呼びかけが届かない人がある	
その解決策	
1 屋上庭園の普及 グリーンカーテンの普及 グリーンマーク・エコマークの商品を選ぶ	
2 水の使用量がわかるアプリの開発 センサー式手洗いを普及させる	

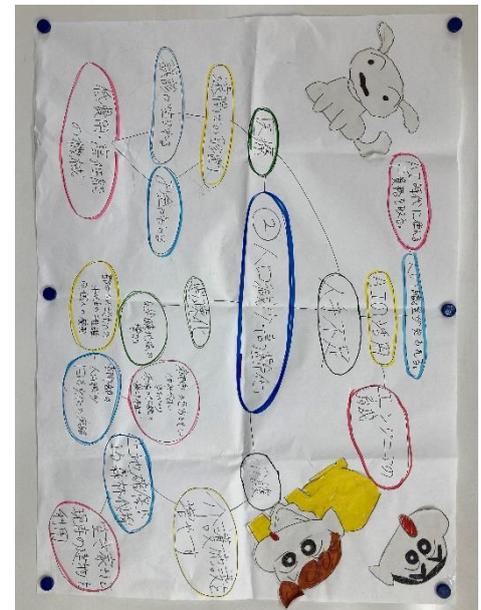
高校生として、節水を呼びかけ資源を大事にしたい。



テーマ：人口減少・高齢化

社会的課題	
1 人手不足	2 過疎地域の増加
3 介護者不足	4 医療不足
解決策	
1 AI の活用	
2 I ターン・J ターンを推進 外国人を雇用	
3 介護施設を増やす 4 遠隔で診断	
トレードオフ	
1 人の仕事が奪われる	
2 都市部の人口減少 日本文化の衰退	
3 森林伐採 4 お金がかかる 誤診	
その解決策	
1 資格の取得	
2 若者への伝統継承 誰でも住みやすい街づくり	
3 空き家の利用 4 低費用高性能の IT 開発	

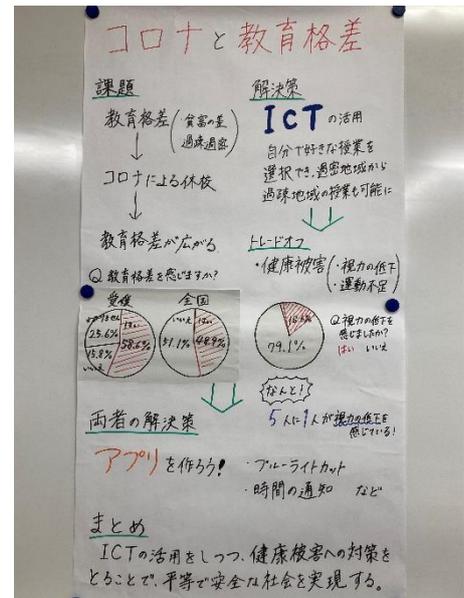
高校生として、若い力が必要とされる場所でのボランティア活動などに積極的に参加したい。



テーマ：教育

社会的課題	教育格差 (新型コロナウイルス感染症でさらに格差が広がる)
解決策	ICT の活用
トレードオフ	視力低下 運動不足
その解決策	使用時間を通知するアプリ ブルーライトカット画面

高校生として、ICT をどんどん活用していく反面、その有害性についてもよく学んでいきたい。



テーマ：エネルギーと廃棄物

社会的課題	ゴミの燃焼の増加
解決策	熱エネルギーを使用 (プール・温泉)
トレードオフ	熱エネルギー変換施設の場所・コスト
その解決策	熱エネルギーを個人の家庭にも配給し、無駄なく効率的に使うことで、コストカットを目指す

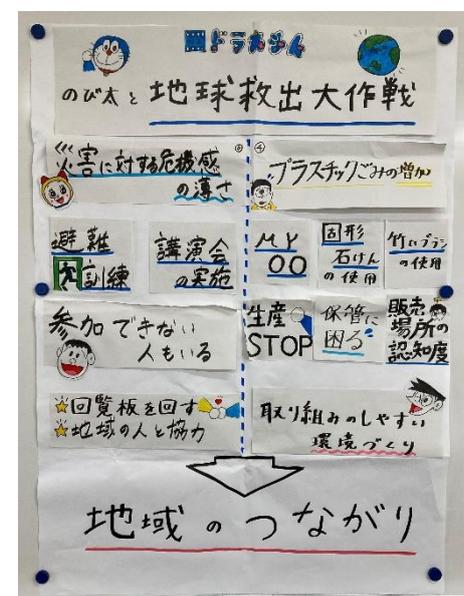
高校生として、ごみを減らす、エネルギーを無駄使いしないなど、普段の生活でできることをしっかりやっていきたい。



テーマ：エネルギーと廃棄物/防災・減災

社会的課題	1 プラスチックごみの増加 2 災害に関する危機感の薄さ
解決策	1 マイボトル・固形石鹸・ケア歯ブラシの使用 2 避難訓練 講演会
トレードオフ	1 売れないと生産ストップ 販売場所の周知がない 2 参加できない人がいる
その解決策	1 売れる仕組みづくり→地域の力を借りる 2 回覧板 地域のつながり

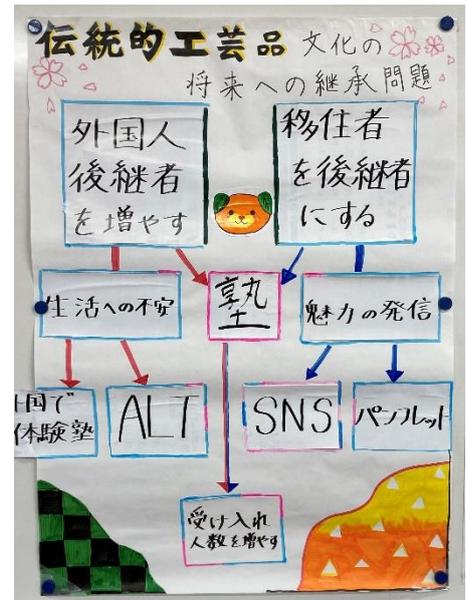
高校生として、地域の一人としてできることから活躍したい。



テーマ：地域の魅力

社会的課題 伝統工芸の伝承
解決策 外国人後継者を増やす
トレードオフ 生活の不安 伝統工芸に対する知識のなさ
その解決策 総合型塾の設立 ALT の活用 他国での魅力の発信

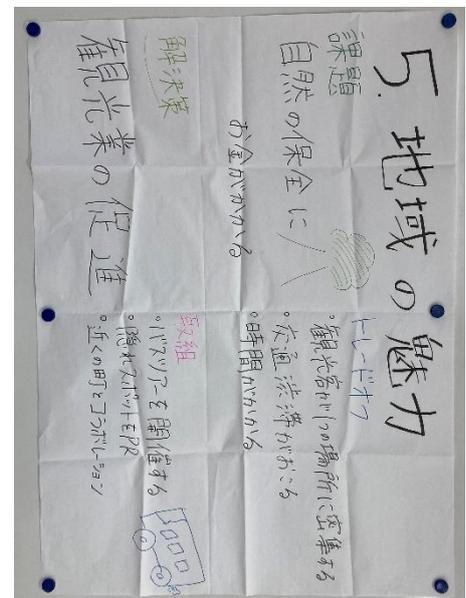
高校生として、伝統工芸に興味を持ち、若い後継者として文化を引き継ぐ責任がある。良さやカッコよさを SNS 等で発信していきたい。



テーマ：地域の魅力

社会的課題 自然の保全に金がかかる
解決策 観光業の促進
トレードオフ 観光客が一つの場所に密集 交通渋滞
その解決策 隠れスポットをPR (分散化) バスツアーを開催 近くの町とコラボして話題性を

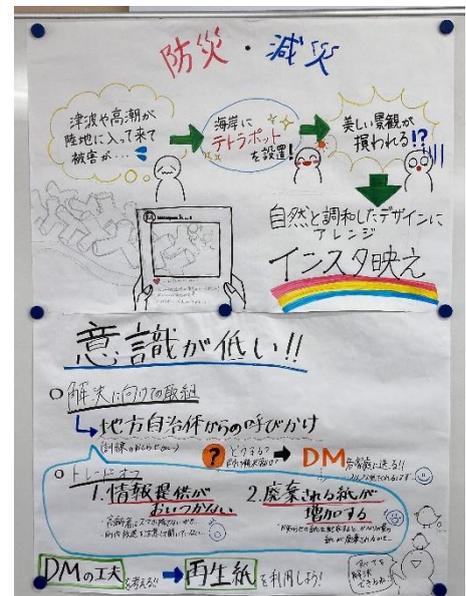
高校生として、高校生の感覚で隠れスポットを見つけ、ツアーを作ってみるのも楽しい。



テーマ：防災・減災

社会的課題 1 津波 高潮 2 市民の意識が低い
解決策 1 海岸にテトラポットを設置 2 自治体からの呼びかけ
トレードオフ 1 美しい景観が損なわれる 2 情報提供が追い付かない (高齢者はスマホがない) 紙の無駄使いになる
その解決策 1 インスタ映えするデザイン 2 再生紙の利用 デバイス (音声) 付き回覧板の利用

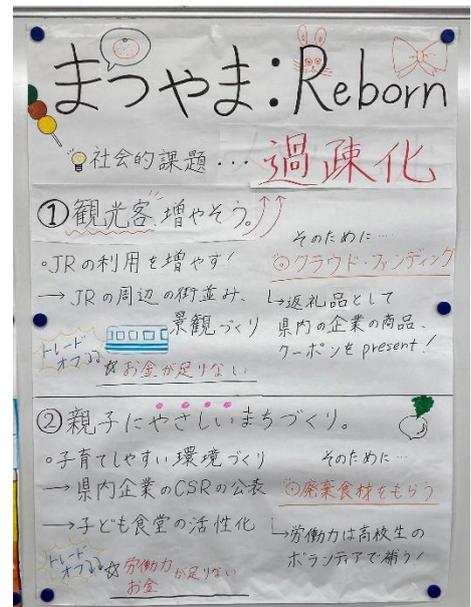
高校生として、防災士の資格を取ったり、地域の市民消防団になるなどできる。



テーマ：地方創生

社会的課題	1 過疎化                      2 子育てしにくい
解決策	1 観光客の誘致 JR 周辺の開発 2 企業CSR の公表 (育児休暇) 子ども食堂の活性化
トレードオフ	1 資金が足りない 2 労働力が足りない
その解決策	1 クラウドファンディング 2 高校生ボランティア

高校生として、若者が活躍できる街を作ったり、就職で戻って来たいと思える街を作ったりしていくことが求められる。観光客誘致についてもSNSで若い世代に魅力発信したい。



テーマ：地方創生

社会的課題	過疎化
解決策	人材誘致 移住体験 (I ターン・J ターン)
トレードオフ	つながりが薄くなる 伝統の消滅
その解決策	伝統や景観を未来につなげる (条例化)

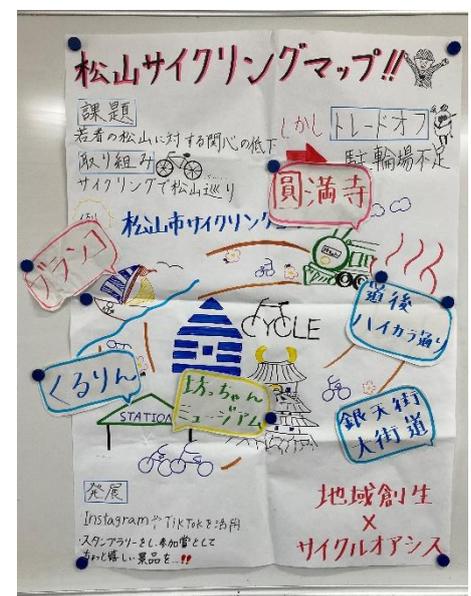
高校生として、理想の未来像を声に出すことで、それに近づいていくための方法を生み出していく。



テーマ：地方創生

社会的課題	地元に対する関心の低下
解決策	サイクリングで松山めぐり
トレードオフ	駐輪場の不足
その解決策	サイクルオアシス・トイレの設置 バイクシェア

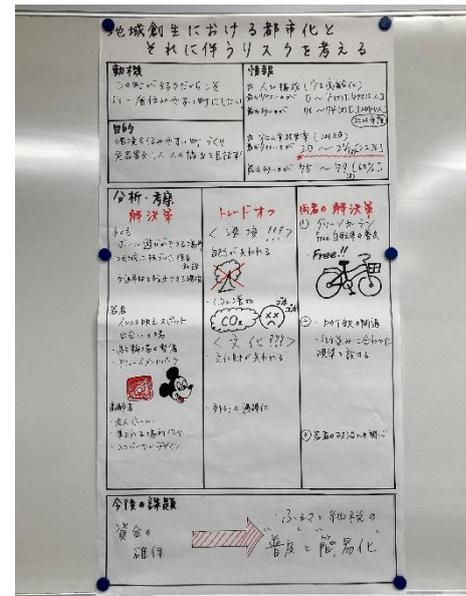
高校生として、このようなサイクルプランを作ってみたが、地図化したり、サイクルステーションで紹介したりするなど、発信していきたい。



テーマ：地方創生

社会的課題 都市化にともなう過疎化
解決策 ボール遊びができる場所の設置 地域に根付いた保育施設の設置 交通事故防止 インスタ映えスポットの開発 駐車場・駐輪場の整備 アミューズメントパークの誘致 老人ホームの建設 ユニバーサルデザインの町づくり
トレードオフ 環境破壊 文化財の喪失 郊外の過疎化
その解決策 グリーンカーテン 無料自転車の貸し出し 地下鉄の開通

高校生として、自分たちの大好きな故郷を、単に大都市化するのではなく、魅力を魅力として認識する目も大切なのだとわかった。進学や就職で離れる前に、郷土愛をもっておきたい。



## VI コンソーシアムにおける取組

### 1 各種取組

#### (1) 大学との連携

##### 連携先① 愛媛大学

- ・課題研究講師派遣 G明教Ⅲ（2年生GLコース）の課題研究の時間に9講座開設 講師9人及びTA5人が指導  
G明教Ⅱ（1年生）の課題研究の時間に講師派遣 4人
- ・講演講師派遣 G明教Ⅰの講演に講師を派遣 講師2人

- ・保健講座講師派遣 1人

- ・運営指導委員会・コンソーシアム会議 委員派遣

##### 連携先② 松山大学

- ・課題研究講師派遣 1講座開設 講師1名が指導
- ・コンソーシアム会議 委員派遣

##### 連携先③ 学習院大学

- ・講演講師派遣 1人

#### (2) 産業界との連携

##### 連携先① いよぎん地域経済研究センター（IRC）

- ・県内企業FWの紹介
- ・海外FW訪問先紹介
- ・課題研究連携先の紹介
- ・コンソーシアム会議 委員派遣
- ・市内高校生会議講師派遣 1人

##### 連携先② 県内企業FW代替講演

- ・三浦工業、アテックス

##### 連携先③ 海外FW代替講演

- ・三浦工業台湾本社、三浦工業（中国）有限公司

#### (3) 行政機関等との連携

##### 連携先① 松山市役所

- ・講演講師派遣 総合政策部シティプロモーション推進課
- ・課題研究講師派遣 総合政策部危機管理課
- ・笑顔のまつやま まちかど講座 受講 15講座開設
- ・「ふる里産業人養成講座」開設 総合政策部企画戦略課 3回
- ・保健講座 松山市保健所 松山市保健予防課
- ・運営指導委員会・コンソーシアム会議 委員派遣

連携先② 愛媛県国際交流課、(公財)愛媛県国際交流協会(E P I C)  
・ハワイ高校生との交流

## 2 コンソーシアム 会議議事録

### (1) 第1回コンソーシアム 会議録

～期日：令和2年7月17日 場所：愛媛県立松山東高等学校 会議室

参加者 西村 秀典氏、井上 圭二氏、西村 勝志氏、北須賀 逸雄氏  
中川 智裕氏、山本 司氏、山崎 薫氏、仙波 隆三氏  
矢野 重禎主幹、近藤 啓司指導主事、嶋村 美和地域協働学習実施支援員  
佐伯 幸治校長、仲尾 頼和教頭、野澤 道生教頭、高山 由美事務長  
皆川 雅文GL事業課長、森 恵美子GL事業課員、村上 曜介GL事業課員

#### 【佐伯校長挨拶】

5年間のSGH事業を継承して、昨年度よりグローバル型に取り組んでいる。生徒一人一人が世界に羽ばたいて広い視野を持って、思考しながら考えながら地域課題に向き合って、地域に貢献できるグローバルリーダーとして活躍できる人材の育成を目指している。しかし、この事業に取り組む一番の肝は、生徒全員が課題研究に取り組み、学校全体としての探究する力を向上させることである。自分で課題を見つけ、自分で考えて行動する力を学校全体で育む文化を定着させていきたい。何故？どうして？という問いかけを、各教科だけでなく学校生活全体に広げていきたい。それこそが、正解のない社会で生き抜くための力になり武器になっていく。昨年度の課題にあった課題研究の指導の仕方について、改善にも取り組んでいるが、それが妥当なものなのかの御指導・御助言をお願いしたい。

#### 【事業内容説明】 (GL事業課長) 本年度の取組について

協議

#### 【山本司氏】

新型コロナウイルスの影響で、やむを得ずリモートでの取組をしているが、リモートであれば世界と直接繋がることができる。ピンチをチャンスに変えるような取組を行えば、効果を高めることができるのではないかと。対面でしか効果が上がらないものと、リモートで効果が上がるものとを上手く組み合わせたい。

#### 【西村勝志氏】

この時期までに、多くのことが実施されていて感心した。2年生のGLコース生を80名に絞っているが、もったないと感じた。希望する学生が選択できないものか。1年生の課題研究を本校の先生方で行っていることは素晴らしい取組であるが、内容的にはテーマの設定が限定的になっている。幅広くするために外部の講師との連携を図っていく必要があるのではないかと。

#### 【北須賀逸雄氏】

課題研究で培った思考力は大学・社会人で生かされていくので重要ではあるが、先生方の負担が大きくなるのが課題ではないかと。外部の人材を活用していく計画を立てていくことが必要ではないかと。グローバル人材育成振興基金があるので、有効に活用すれば外部人材の活用も十分できるのではないかと。

#### 【中川智裕氏】

IRCは地域に関する研究活動をし、情報発信している会社であるので、課題研究で何らかのお手伝いができるのではないかと。我々がレクチャーするだけでなく、高校生からの意見も我々にとっては新しい切り口になり刺激にもなり得るので、協力・連携できるのではないかと。

#### 【西村秀典氏】

昨年、まちかど講座で講座を担当したが、生徒に指導するために私自身改めて勉強し直した。松山市の職員にとっても、まちかど講座で生徒の前で話をすることは、勉強になることであるので今後も活用して欲しい。地域に根ざした人材の育成は、松山市にとっても求められることなので協力していきたい。

#### 【野澤教頭】

1年生の担当教員全員で課題研究に取り組むことは、教員自身のスペックを上げることに繋がる。しかし、指導できる分野に偏りが見られ、生徒のニーズと合わないこともあるので、コンソーシアムの方々から、不足している分野の人材などを教えていただきたい。

#### 【井上圭二氏】

現在の計画表があるが、今の時点で未定の部分があるのか。

#### 【GL事業課長】

現在のところ、講演と課題研究等で予定は決まっている。しかし、新型コロナウイルスの影響によっては、県内フィールドワークが実施できない可能性もある。

【北須賀逸雄氏】

1年生の課題研究の時間が12回計画されているが、この中に外部人材の活用は考えているのか。積極的に活用するように取り組んでほしい。

【GL事業課長】

360名全体が聞く講演は、この中には計画していない。各先生方が個別に外部人材を招いてお話を伺う計画はしている。それ以外でも嶋村地域協働学習実施支援員のお力をお借りして、外部人材と繋げるように努めていきたい。

【山本司氏】

我々の団体も連絡いただけたら協力できる。来年度以降も2年生は80名で実施するのか。各先生方が熱心にすれば希望者が増えるのではないかな。

【GL事業課長】

増やしたいとは考えているが、最終的には論文作成を課しているのだから、かなり意識が高い生徒ではないと学業や部活動との両立には苦勞することも考えられる。生徒の様子を見ながら検討していきたい。

【西村勝志氏】

本校OBの方に指導をお願いしても良いのではないかな。SDGsの考え方では、経済・社会・環境の分野を学ぶことが重要であり、本校OBの方なら直接そのような分野で活躍された人材もいるはずである。同窓会なども活用しながら取り組んで行ってはどうか。後輩のためならと、活動して下さる方も多いのではないかな。

【仙波隆三氏】

今までの国際交流は平時の時だからできたことである。新型コロナウイルスによる影響は、グローバルな現代ならではの影響でもあり、国際化のリスクである感染症や国際紛争・戦争の問題にどう対応していくのかを考える機会にしてはどうか。国際化の中で自分をどう守るのか、日本の常識が世界の常識でないこと、危機的状況下での対応や可能な国際交流のあり方などを学ぶ良い機会として捉えてほしい。

【山崎薫氏】

昨年度行っていた海外フィールド報告会は実施しないのか。

【GL事業課長】

昨年度のような形では実施しないが、フィールドワーク実施後は学年集会や3月の報告会などを活用し、フィールドワークの報告を行い、他の生徒の海外への興味・関心の喚起に繋げていきたい。

【山本司氏】

本年度実施できなければ、1年生は貴重な発表を聞く機会が失われるので、昨年参加した生徒にもう一度発表させても良いのではないかな。

【佐伯校長挨拶】

貴重な御意見ありがとうございました。課題研究に不安を抱えていたが光が見えた気がする。課題研究が調べ学習に終わらないように、自分で課題を見つけ探究できるように質を高めることが必要であり指導体制を構築していくことが重要である。今回の貴重な御意見を参考にし、全員が課題研究に取り組むことができるように、意見をいただいたOBの活用などを行ってほしい。また、外部の方をお願いする場合にはお互いにWin-Winの関係になれるように取り組んでほしい。

(2) 第2回コンソーシアム 会議録

～期日：令和3年3月4日 場所：愛媛県立松山東高等学校 会議室

参加者 田中健太郎氏、西村 勝志氏、北須賀 逸雄氏、中川 智裕氏、山本 司氏、山崎 薫氏  
仙波 隆三氏、矢野 重禎主幹、近藤 啓司指導主事、嶋村 美和地域協働学習実施支援員  
梶原 春菜カリキュラム開発等専門家、仲尾 頼和教頭、野澤 道生教頭、佐々木 進教頭  
高山 由美事務長、皆川 雅文GL事業課長、稲葉 麻衣GL事業課員

【野澤教頭挨拶】

本年度の取組において各員からの忌憚のない御意見や助言をいただき、来年度への取組の改善を行ってほしい。

【事業内容説明】 (GL事業課長)

本年度の取組及び成果と課題について  
来年度の取組と事業終了後の計画について

協議

【山本司氏】

2年ぶりの発表会であったが、リラックスして発表できていた。発表の機会を設けることができ、生徒の成長している姿が見られて嬉しかった。今まで真摯に事業に取り組んできた成果であるので、このよう

な発表会はぜひ継続して行ってほしい。特に、観光甲子園で準グランプリを受賞された作品は素晴らしく、これからも様々な場面で活用してほしい。

コロナ禍だからできることを、生徒ともに考えていくことは大きな財産になるので、今後も工夫しながら取り組んでほしい。

**【中川智弘氏】**

発表会を見て、年々生徒のレベルが上がっていると感じた。生徒の努力だけでなく指導している先生方の成果ができていないのではないかと。私たちが来年度、2年生の課題研究の1講座を担当するが、本年度は生徒の取り組みやすい内容が多かったため、IRCの専門が生かせるような一歩踏み込んだ「産業」などを伝えていきたい。

**【西村勝志氏】**

シンポジウムのテーマを、医療と工学、農学と医学など複数の分野を結びつけているが、これからの社会では異なる事項を結びつけて考えていくが求められており、良かったのではないかと。

現在行っている内容を発展的につなげていくテーマも考えて行ってほしい。先輩達が研究した内容をさらにブラッシュアップさせるような取組があっても良いのではないかと。

**【GL事業課長】**

来年度は、2、3年生が一部同時時間帯で課題研究を実施するので、3年生が2年生を指導できないか、担当の先生と相談しながら準備している。

**【北須賀逸雄氏】**

松山大学として来年度から薬学部の2講座を新たに開設することができた。

今年度の成果はオンラインでの取組であるが、来年度以降もオンラインを有効に活用しながら、さらに発展した取組に挑戦して行ってほしい。

今年度から教員主導で課題研究に取り組んでいるが、その成果はどうか。

**【GL事業課長】**

地域協働学習実施支援員の嶋村氏やカリキュラム開発等専門家の梶原氏の協力を得て、課題研究の進め方の資料やオンライン授業を行った。生徒アンケートでは1年間のGL事業の中で課題研究が最も印象に残っている生徒が多く、取組としては上手くいっているのではないかと。各先生方が創意工夫して、生徒のために指導していただいた成果ではないかと。GL事業課としてのサポートは十分といえず来年度の課題として取り組んでいきたい。

**【山崎薫氏】**

1年生のやさしい日本語の発表には、自分自身が啓発された。

松山市内高校生会議はどのような取組をされているのか。

**【GL事業課】**

月に1回、市内の高校に案内し実施している。毎月SDGsの課題を一つ選び、専門家を招聘して実施している。専門家の話には生徒達は大きな刺激を受けており、参加者が増えているのではないかと。また、運営から企画まで生徒が行っており、生徒自身の成長にもつながっている。

**【田中健太郎氏】**

コロナ禍で予定変更が多かったにも関わらず、しっかり実施できている。オンラインの活用も今後の事業にさらに生かして行ってほしい。松山市として、ふる里産業人養成講座での協力ができ、来年度以降もまた協力していきたい。

**【仙波隆三氏】**

国際交流は現地に赴いて、会って交流することが大切であったが、コロナ禍の今、リモートでの交流が貴重な体験になったのではないかと。直接交流とリモートでの交流を組み合わせた方法が、交流の質を上げていく一つの戦略となり武器になるのではないかと。さらに発展できるように取り組んで行ってほしい。

**【西村勝志氏】**

愛媛大学は来年度からZoomではなくTeamsを利用していく。

**【野澤教頭挨拶】**

貴重な御意見ありがとうございました。来年度も御協力よろしくお願いします。

**VI その他の取組**

その他に以下の内容の取組を実施した。

	内容
1	松山東高等学校グローバル人材育成振興会

## 1 松山東高等学校グローバル人材育成振興会

## (1) 発足経緯

平成 27 年度に実施したウガンダFWの際に、その費用の一部を寄付によって賄うためにPTA会長を代表とする「松山東高等学校グローバル人材育成振興会」として発足した。その後、平成 28 年度に規約を改正し、対象をウガンダFWのみならずグローバルリーダー育成における様々な取組に活用できるようにして新たな「松山東高等学校グローバル人材育成振興会」を結成した。振興会の会長には、永野能弘氏（四国建販代表取締役社長）に就任していただき、学校・同窓会とは分離した第三者的組織となった。

## (2) 振興会趣意書・役員表

## 松山東高等学校グローバル人材育成振興会 趣意書

皆様方には、時下、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。日ごろから松山東高校の教育活動に対しまして格別の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、松山東高校は平成 26 年度から文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」事業の指定を受け、「東高がんばっていきましょい ～ALL愛媛で育てる世界にはばたく人材～」の研究開発構想名のもと、輝かしい歴史と伝統を受け継ぎながら、SGH事業を通して世界で活躍できる人間的魅力のあるグローバルリーダーを育てる取組を行ってきました。

この事業を通して「世界の持続可能な発展に貢献する意欲と深い教養を身に付けた人材」、「問題解決力・コミュニケーション能力等の国際的素養を持つ人材」、「日本人としてのアイデンティティを持ち、愛媛や日本の魅力を世界に発信する人材」が松山東高校から多く輩出するよう、5年間にわたり課題研究を始めとする取組が展開されてきました。今までの生徒の熱心な活動の様子は、本校ホームページやGL News Letter等で紹介しています。

平成 28 年、これまでの生徒の取組や成果を鑑み、新たに松山東高等学校グローバル人材育成振興会を立ち上げました。毎年皆様から会費を募り、国際感覚・国際的教養を身に付けたグローバル人材を育成するために広く活用してきました。令和元年度からは、SGH事業のレガシーを継承し、地域課題に取り組む「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」に文部科学省から新たに指定を受けました。つきましては、今後も引き続き皆様方より会費を募り、生徒の活動を支援していきたいと考えております。なお、使途につきましては下記の内容を予定しております。

このことは、松山東高校のみならず松山、愛媛さらには日本の一層の発展に資するものと考えます。何とぞ、この趣旨を御理解の上、皆様方の温かい御支援、御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和2年7月吉日

松山東高等学校グローバル人材育成振興会 会長 永野 能弘

## &lt;会費の使途の具体例&gt;

- ◆海外フィールドワーク・海外研修に参加する生徒等への補助
- ◆学会・研究会で発表する生徒等への補助
- ◆講演会等実施時の講師旅費・謝金
- ◆教育活動に役立つ ICT 機器の整備

## 松山東高等学校グローバル人材育成振興会役員

会 長	永 野 能 弘	四国建設機械販売株式会社代表取締役社長（同窓会副会長）
副 会 長	稲 葉 隆	大一ガス株式会社常務取締役
副 会 長	光 田 正	松山東高校PTA会長
顧 問	和 田 真 志	松山東高校校長
顧 問	村 田 裕 司	同窓会長
理 事	重 松 栄 治	いよぎん地域経済研究センター取締役社長
理 事	宇 和 上 正	同窓会副会長
理 事	大 空 佳 穂 里	松山東高校PTA副会長
理 事	仲 尾 頼 和	松山東高校教頭
理 事	野 澤 道 生	松山東高校教頭
理 事	高 山 由 美	松山東高校事務長
会計監査	井 手 一 隆	同窓会事務局長
会計監査	中 野 記 久 子	松山東高校PTA監査

## 2 運営指導委員会 議事録

- (1) 令和2年度 第1回 松山東地域との協働による高等学校教育改革推進事業運営指導委員会 記録  
～日時：令和2年7月17日（金）場所：愛媛県立松山東高等学校 会議室～

参加者 井上 敏憲委員、佐伯 三麻子委員、金村 俊治委員、菅 紀子委員、  
寺村 尚起委員、近藤 実委員、高岡 伸夫委員、矢野 重禎主幹、近藤 啓司指導主事  
佐伯 幸治校長、仲尾 頼和教頭、野澤 道生教頭、高山 由美事務長  
皆川 雅文GL事業課長、稲葉 麻衣GL事業課員

### 【矢野主幹挨拶】

松山市の職員の方には、「笑顔のまつやままちかど講座」において、市制の取組について御講義をさせていただくなど、すでに協力いただいていることに感謝申し上げます。

本事業は、地域課題の解決等の学習を通して、各教科・科目や学校設定科目等において、体系的なカリキュラムを構築し、地域ならではの、新しい価値を創造する人材の育成を目指している。県教育委員会としても、地域との協働によるコンソーシアムの構築に加え、専門の見地から指導等に当たっていただく本委員会を設置することで、取組状況の把握と御助言等を行っていただきたいと考えている。

### 【井上委員長挨拶】

2年目に入り、本格的な課題研究がスタートしている。昨年度から順調に実施されているが、新型コロナウイルスの影響で出鼻をくじかれた状況になっているが、その新型コロナ対策を含めて、生徒の状況を教えていただきたい。

### 【佐伯校長挨拶】

5年間のSGH事業を継承して、昨年度よりグローバル型に取り組んでいる。生徒一人一人が世界に羽ばたいて、思考しながら考えながら地域課題に向き合っており、地域に貢献できるグローバルリーダーとして活躍できる人材の育成を目指している。しかし、この事業に取り組む一番の肝は、生徒全員が課題研究に取り組み、学校全体として探究する力を向上させることである。自分で課題を見つけ、自分で考えて行動する力を身につけさせ、何故？どうして？という問いかけを、各教科だけでなく学校生活全体に広げていきたい。それこそが、正解のない社会で生き抜くための力になり武器になっていく。昨年度の課題にあった課題研究の指導の仕方について、改善にも取り組んでいるので御指導・御助言をお願いしたい。

【事業内容説明】（GL事業課長） 本年度の取組について  
協議

### 【井上委員長】

課題研究の進め方で見直しをされているが、本校の教員が指導する形態は、本年度が初めてであるのか。

### 【GL事業課長】

本事業が終了後も継続して実施できるように本年度から取り組む。本年度生じた課題を来年度以降に生かせるように取り組んでいきたい。

### 【金村委員】

講演を多く取り入れており、興味深いテーマではあるが、講演の理解を深めるために、講演後に生徒どうしのディスカッションやワークショップのようなアクティブラーニングの手法を取り入れられているのか。理解をより深めたり、他人と意見を戦わせたりすることで、新しい考え方の発見に繋げていくことができるのではないか。

### 【GL事業課長】

講演によっては、講演中にディスカッションするような場面もあるが、講演の事後の時間は十分にとれていないのが現状である。生徒にはワークシートを作成させ、それによって来年度への改善点を検討している。

### 【金村委員】

時間的に難しいかもしれないが、講演の時間を少なくとも、生徒どうしのディスカッションの時間を確保した方が、効果が上がるのではないか。大学ではそのようなことが工夫されていると思うのでアドバイスをいただいても良いのではないか。

### 【井上委員長】

講演に関しては、事前・事後学習が大切であると言われている。今回の取組は、講演で情報を十分与えてから、課題研究において深める取組をなされている。アンケートなどを工夫していけば、講演の効果をさらに上げていくことは可能であるのではないか。

### 【佐伯委員】

現在、やっていることを可視化することが求められている。e-ポートフォリオのように、自分の学びの過程を記録していくことが大切である。

言語活動の充実、E a s t C L I Lのような取組が、課題研究とどのように関連しているのか。

### 【稲葉GL課員】

CLILは全教員で取り組んでいる。課題研究は、各教員が得意な分野を担当しているので、直接的には繋がっていない。しかし、英語の文献を読むときや英語で発表をまとめる活動などで言語活動の充実の取組が活かされているのではないかと考えている。

### 【寺村委員】

SGH事業から課題研究などに長年取り組まれているが、卒業生からの振り返りを行うことによって、課題研究の効果の検証を行う必要があるのではないかと。講演会なども、企業で活躍されている卒業生や学生などが行うと、より身近に感じられるのではないかと。また、日本を知ることは、海外から見ることが一番であるので、このような状況ではあるが、海外への活動も積極的に行ってほしい。

### 【井上委員長】

松山南高校はSSH事業で追跡調査等を行われているようである。

### 【近藤委員】

今回のSSH指定では、文部科学省より追跡調査が十分できていたと評価された。また、1期生の卒業生が、アメリカの海外研修を企画・運営などに関わっていただいている。

### 【菅委員】

eポートフォリオは大切であり、活動した内容を記録し、自分で管理し、自分のアピールに繋げていくことが必要である。新型コロナウイルスの影響下で、計画したものができない状況下であるが、リモートだからできることがあるのではないかと。工夫次第で新たな取り組みができるのではないかと。課題研究においては、グローバルの主旨を理解して幅広いテーマ設定ができており頼もしく感じ、事業終了後にも繋げていってほしい。

### 【高岡委員】

このプログラムを体験して社会に出た卒業生の追跡調査を行い、どのような人材に育っているかの見える化を行ってほしい。松山市としても地方創生、人口減少対策の一つの方策として高校との連携による人材育成に取り組んでいるので、これからも要望があれば、連絡してほしい。SDGsへの取組も松山市では積極的に取り組んでいるので、課題研究等でも活用してほしい。

### 【井上委員】

松山市との連携もできており、これからも新しいパートナーとして活動して行ってほしい。GL事業ではいろいろなことに取り組まれている。たくさんをしようと表面的になる恐れがある。課題研究においても、各先生方が工夫をされているが、多くのことを実行しようとして無理が生じていないか。ある程度絞って、テーマを深められる時間を確保して行ってほしい。

## (2) 令和2年度 第2回 松山東地域との協働による高等学校教育改革推進事業運営指導委員会 記録 ～日時：令和3年3月4日（木）場所：愛媛県立松山東高等学校 会議室～

参加者 井上 敏憲委員、佐伯 三麻子委員、金村 俊治委員、菅 紀子委員、  
寺村 尚起委員、高岡 伸夫委員、矢野 重禎主幹、近藤 啓司指導主事  
仲尾 頼和教頭、野澤 道生教頭、佐々木 進教頭、高山 由美事務長  
皆川 雅文GL事業課長、稲葉 麻衣GL事業課員

### 【矢野主幹挨拶】

本事業は2年目になるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、海外FWが実施できない中、国内外の企業や学校と連携したオンラインでの講演や代替交流を実施するなど、感染防止対策を図りながら可能な限り最大限の取組を実施している。体系的なカリキュラムを構築し、地域ならではの新しい価値を創造する人材の育成を目指しており、専門的見地からの忌憚のない指導や助言を行っていただきたい。

### 【野澤教頭挨拶】

本事業がより良いものになるように忌憚のない御意見や御助言をお願いしたい。

### 【事業内容説明】 (GL事業課長)

本年度の取組及び成果と課題について

来年度の取組と事業終了後の計画について

協議

### 【井上委員長】

事業終了後の教育課程の特例申請についてはどうなのか。情報が大学共通テストの科目として取り扱われるが大丈夫なのか。

### 【GL事業課長】

情報と保健を1時間ずつG明教としている。G明教の中で、プレゼンテーション作成やポスター作成を行っており、情報の代替としている。来年度は、情報課と協働し情報リテラシーに関わる取組も入れて行きた

いと考えている。将来的には、総単位数の工夫により、生徒が不利益を被ることがないように取り組んでいきたい。

**【高岡委員】**

県内企業FWや海外FWの代替講演はどのような形で実施されたのか。

**【GL事業課長】**

三浦工業株式会社と株式会社アテックスの協力を得て実施した。リモートで各企業の業務内容や海外進出の様子、海外で事業を進めていく上での課題やその対応策、地域貢献の取組などを説明していただき、その後質疑応答を行った。海外とは、交流予定校とオンラインで、学校紹介やレクレーションを行い、交流を図った。来年度もオンラインであれば、参加人数を増やしていきたい。

**【佐伯委員】**

SDGsの観点から世界の諸問題を学習する上において、模擬国連の試みは意義深い。ただ、高校生がグローバル・イシューをどのように自らの課題として捉えたのか、グローバルな課題としてどのように落とし込んだのかを知りたい。また、模擬国連を実施した際の生徒達の反応はどうだったのか。

**【GL課員】**

1年生の取組なので、進め方やイシューに対して何を調べるのか、模擬国連とは何かなどについて理解している段階である。

**【野澤教頭】**

2年次にGLコースを希望する生徒の面接をしている中で、模擬国連の感想が多かった。その活動を通して、自分達の要求や主張をするためには、相手が聞いてもらえる内容に落とし込んでいくことが必要であるということが分かっており、コミュニケーション的合理性を実体験したのではないかと。

**【金村委員】**

課題研究において、SDGsを扱ったものについては、地域の資源を生かす比較的楽しいテーマのものが多かった。講演を聞いて、身近な問題や課題に落とし込んでみたり、当事者の発言を踏まえた情報収集に基づいて新たなテーマ設定したりすることが大事である。SDGsについて生徒達は身近な問題だと感じているのか。

**【GL課員】**

愛媛大学の先生から楽しく講演をしていただいている。掲示物などでも啓発は行っており、教科書等でも取り上げられており、内容については全ての生徒が知っている。

**【金村委員】**

具体的な深刻なテーマである貧困とかに対して、自分の考えや提案などがどのようなレベルになっているのか。

**【GL事業課長】**

SGH部の活動の中では、SDGsのそれぞれのテーマに対する学習や議論が盛んになされており、考えをまとめることや提案などを行っている。また、1年生のいくつかの講座でも行っている。さらに、2年生においては、大学の専門家からの指導により、より深い学びが実践されており、高いレベルになっていると思われる。

**【井上委員長】**

課題研究の中で、必ずSDGsに関連づけようとするれば、窮屈な状態になってしまうので、現在のような取組で良いのではないかと。

**【寺村委員】**

海外FWを再開する基準はあるのか。この1年で、ハード面で困ったことはなかったのか。

**【GL事業課長】**

外務省の海外渡航に関する情報や国内外の情勢を踏まえて考えていきたいが、来年度は可能性がある限り挑戦していきたい。ハード面は、ノートパソコン等の不足で、ポスターづくりは苦労したが、来年度からは1人1台のタブレットが支給されるので改善されると考えている。

**【寺村委員】**

1年生のポスターで、政治や選挙、教育に関して、踏み込んだ内容となっていたが、生徒の考えをどのように生かしていくのか、また、今後どのようにこの生徒達を育てていくのかを知りたい。

**【GL事業課長】**

来年度から松山市選挙管理委員会からも講師を招いて講座を開設している。その講座を受講する生徒達を中心として、主権者教育を実施したり、高校生の投票率向上のための活動を行ったりして、本校以外にも普及を図っていきたい。

**【菅委員】**

「EUがあなたの学校にやってくる」ではリトアニアの大使が来校されているが、その経緯はどのように

なっているのか。また、生徒の反応がどうであったかを知りたい。

**【GL事業課長】**

本年度はコロナ禍で交流の機会が限られており、応募させていただいた。どの国の大使が来られるかは指定できない。2年生のGLコース生以外の交流の機会として実施したが、EUへの関心が高まるとともに、リトアニアについての理解も深まる貴重な学びの機会となった。全体会の後、会議室で質疑応答を行ったが、参加した生徒から多くの質問があり、有意義な時間となった。

**【井上委員長】**

来年度の計画の中で中四国高校生会議が計画されているが、新たなものか。

**【GL事業課長】**

SGH事業の時から実施しており、本年度は5回目を実施した。コロナ禍であり、県外からの参加はなかったが、県内から多くの高校生が参加してくれた。

**【井上委員長】**

グローバルな取組なので、広げることや数を競うことは必要ない。継続していくことが大切である。

**【佐伯委員】**

防災教育はとても大切である。今日の生徒の発表の中に「やさしい日本語」という提案があったが、ピクトグラムの有効活用によって有用な情報を伝達することも可能である。防災講座が開設されており、取り組んでいる生徒がいるが、生徒の関心は高いのか。

**【GL事業課長】**

1年生、2年生ともに希望者による講座であるため、もともと生徒の防災に対する意識は高いと思われる。また、専門家の松山市の危機管理課の芝さんの指導により、その意識はさらに高まっており、防災士の資格に挑戦した生徒もいる。

**【井上委員長】**

生徒達は意欲的に本事業に取り組んでおり、東高の指導体制が着実にスキルアップしているのではないかと。十分な成果を上げていると思われるので、最後の1年間ではあるが、生徒のために新たな刺激を与えていき、さらなる成長をさせてほしい。

**編集後記**

5年間のSGH事業と昨年度のGL事業の実施により、本年度も計画通り事業を推進できるのではないかとという慢心を、新型コロナウイルスの攻撃によって打ち砕かれた1年であった。年度当初の計画は、その都度変更を余儀なくされ、外部機関と交渉し新たな計画を立てても再びの事業の変更。心が折れそうになったとき、支えていただいたのは、今まで培ってきたコンソーシアムの方々による手厚い支援と、本校教職員の協力体制、そして何より生徒の事業に真摯に取り組む姿勢でした。「GLコースの学習ができたことに強く感謝している。コロナ禍でも発表等のチャンスがあったことに感謝している」生徒の感想の一文であるが、コロナ禍の影響で多くの行事が中止や縮小される中、感染防止対策をした上で発表会の実施が公開でできたことは、我々が正しく恐れること、諦めないこと、挑戦することの大切さ等、多くのことを再認識する機会となりました。また、「ピンチはチャンス」といわれるように、オンラインによる新たな可能性も見出せる機会となりました。

いよいよ来年度は本事業最終年度になります。地域から支えていただいている県立学校として、地域に貢献できる人材、また進学校として、世界や日本全体の発展に寄与できる人材の育成を目指して、教職員・生徒一同「東高がんばっていきましょい」の合言葉のもと精進していきます。

最後に本年度も課題研究等で支援をいただいた愛媛大学や松山大学の先生方、講演や各種交流に協力・支援をいただいた愛媛県内の企業関係者の皆様、指導・助言をいただいた愛媛県教育委員会の皆様、さらには、様々な研修の機会を提供していただいた松山市役所や関係機関の皆様ののおかげで実践できたと考えており、深く感謝申し上げます。これからも、東高に今まで以上に温かい御支援をよろしく願います。

松山東高等学校GL事業課

# 第4部

## 関係資料

- 1 本年度教育課程表（令和元年・2年度入学生）
- 2 1年生 課題研究成果（ポスター）例
- 3 2年生 課題研究成果（ポスター）例
- 4 本年度取組概要図

# 1 本年度教育課程表

## 令和2年度 教育課程表

令和元・2年度入学（普通科）

愛媛県立松山東高等学校（全日制・本校）

区分	科目	単位数	I 型				I型GLコース				II 型				II型GLコース												
			1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計									
国語	国語総合	4	5			5	5			5	5			5	5			5									
	現代文B	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4									
	古典B	4		3	3	6		3	3	6		3	3	6		3	3	6									
地理	世界史A	2										1	1	2													
	世界史B	4		4		4・8		4		4・8																	
	日本史B	4			3	0・3・7			3	0・3・7																	
	地理B	4			3	0・3・7			3	0・3・7																	
歴史	現代社会	2	2			2	2			2	2			2	2			2									
	倫理	2			2	0・2			2	0・2			2	0・2			2	0・2									
	政治・経済	2			2	0・2			2	0・2			2	0・2			2	0・2									
数学	数学Ⅰ	3	3			3	3			3	3			3	3			3									
	数学Ⅱ	4	1	3		4	1	3		4	1	3		4	1	3		4									
	数学Ⅲ	5									1	5		6		1	5		6								
	数学A	2	2			2	2			2	2			2	2			2									
	数学B	2		2		2		2		2		2		2		2		2									
	☆数学探究Ⅰ	3			△3	0・3			△3	0・3																	
	☆数学探究Ⅱ	2			※2	0・2			※2	0・2																	
理科	物理基礎	2									3			3				3									
	物理	4												0・4				0・4									
	化学基礎	2	2			2	2			2				2				2									
	化学	4			□4	0・4			□4	0・4		2	4	4	6		2	4	4	6							
	生物基礎	2		2		2		2		2	3			3		3		3									
	生物	4			□4	0・4			□4	0・4				0・4				0・4									
	地学基礎	2		2		2		2		2																	
	地学	4			□4	0・4			□4	0・4																	
	☆化学探究	2			○2	0・2			○2	0・2																	
	☆生物探究	2			○2	0・2			○2	0・2																	
保健体育	体育	7~8	3	3	2	8	3	3	2	8	3	3	2	8	3	3	2	8									
	保健	2	1	1		2	1			1	1	1		2	1			1									
芸術	音楽Ⅰ	2				0・2				0・2				0・2				0・2									
	美術Ⅰ	2				0・2				0・2				0・2				0・2									
	書道Ⅰ	2				0・2				0・2				0・2				0・2									
	☆音楽探究	3			△3	0・3			△3	0・3																	
	☆美術探究	3			△3	0・3			△3	0・3																	
	☆書道探究	3			△3	0・3			△3	0・3																	
	☆音楽表現	2			※2	0・2			※2	0・2																	
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3			3	3			3	3			3	3			3									
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4		4	4			4	4			4	4			4									
	コミュニケーション英語Ⅲ	4			4	4			4	4			4	4			4	4									
	英語表現Ⅰ	2	3			3	3			3	3			3	3			3									
	英語表現Ⅱ	4		2	3	5		2	3	5		2	2	4		2	2	4									
家庭	家庭基礎	2	2			2	2			2	2			2	2			2									
情報	情報の科学	2	1			1	1			1	1			1	1			1									
共通	教科・科目計	30	31	29・31		90・92	30	30	29・31		89・91	30	31	31		92	30	30	31		91						
家庭	生活と福祉	2~6				0・2	0・2			0・2	0・2																
	フードデザイン	2~6				0・2	0・2			0・2	0・2																
専門	教科・科目計			0・2		0・2			0・2		0・2																
小計			30	31	31		92	30	30	31		91	30	31	31		92	30	30	31		91					
総合的な探究の時間			3~6	2	1	1	4		7	2	2	1	5		8	2	1	1	4		7	2	2	1	5		8
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	1	3		1	1	1	1	3		1	1	1	1	3		1	1	1	1	3		3	
合計			33	33	33		99	33	33	33		99	33	33	33		99	33	33	33		99					

備考

- I型は文科系進学類型。I型GLコースは、文科系進学類型で「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の対象となるコース。
- II型は理科系進学類型。II型GLコースは、理科系進学類型で「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の対象となるコース。
- ☆は学校設定科目。
- △印から3単位、※印から2単位を選択する。ただし、数学探究IIを選択する者は数学探究Iも選択する。
- 2年次に地理B（日本史B）を選択した者は、3年次に日本史B（地理B）を選択することができない。
- I型、I型GLコースの第3学年の地歴公民の2つの選択科目を、ともに世界史B（地理B）とすることはできない。
- I型、I型GLコースの第3学年の理科は、化学探究、生物探究、地学探究を2科目又は化学、生物、地学を1科目選択する。
- まとめ取りを実施する科目
  - 地歴（2年II型、II型GLコース）：日本史Bまたは地理B（4月～10月で延べ55時間、11月～3月で延べ15時間）、世界史A（11月～3月で延べ35時間）
  - 地歴（3年II型、II型GLコース）：日本史Bまたは地理B（4月～7月で延べ20時間、7月～3月で延べ85時間）、世界史A（4月～7月で延べ35時間）
  - 数学（2年I型、I型GLコース）：数学Ⅱ（4月～10月、延べ105時間）、数学B（11月～3月、延べ70時間）
  - 数学（2年II型、II型GLコース）：数学Ⅱ（4月～9月、延べ105時間）、数学Ⅲ（2月～3月、延べ35時間）、数学B（10月～1月、延べ70時間）
  - 数学（1年）：数学Ⅰ（4月～6月、11月～12月延べ105時間）、数学Ⅱ（1月～3月、延べ35時間）、数学A（7月～10月、延べ70時間）
- 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の特例措置により、情報の科学、保健を、それぞれ1単位減ずる。（保健のI型、II型を除く。）
- 英語表現Ⅰ・Ⅱでは、それぞれの科目の目標を踏まえた上で、SGH事業において設置した学校設定科目「Discussion & Debate」での取組を継続し、年間を通じて即典型ディベートを体系的に学習することにより、論理的思考力や批判的思考力を段階的に育成する。
- 総合的な探究の時間（G明数）では、質の高い課題研究を全生徒が行うことを柱とし、体験と実践を伴った探究的な学びを実践する。

# 2 1年生 課題研究成果（ポスター）例

# 我ら「文化ホールおたすけ隊」！



愛媛県立松山東高等学校 対馬光汰 窪田豊輝 白田蒼瑛 大脊戸敬汰 大空拓  
遠藤桜子 水野永梨菜 渡邊涼香 渡辺未夕 永井沙耶 (長谷川公彦先生講座)

## 研究目標

文化ホールについて**若者独自の目線**で徹底研究することで問題点を洗い出す。そして、**若者の興味を惹きなおかつ文化ホールを有効活用できる「イベント」**を提案・実施する。

## 研究理由

近年、若者の文化ホールに対する**興味・関心の低さ**が問題になっている。**地域交流の場としての機能を生かした、より良い文化ホール**を形成するために私たちはこの研究を開始した。

## 研究方法

- 本校1年生へのアンケート調査
- 愛媛県文化振興課へのオンラインインタビュー
- インターネットを通して文化ホールについて調査

## コロナ禍における現状

コロナによる影響はあるが、感染症対策を施した上で様々な世代を対象にした企画を実施している。しかしながら、4月に大学生・芸能人の講演会が中止されるなど、**イベントが減少し、利用者数も減少**している。

## ホール存続の危機

ホールに何回行ったことがある？

**平均 5.4回**

ほとんどが学校行事での利用で個人的に利用した人は**ほんの僅か**である。

## ホールに触れる機会が少ない

ホールをいくつ知ってる？

**平均 2.98ホール**

県内のホール約40個に対し認知度は**7.5%**にとどまる。

## ホールの長所・魅力

- 造りが全体的に綺麗
- 特別な設備が完備
- 情報発信の場
- 集中しやすい
- 様々な用途がある
- 地域活性化できる**
- 地域特有の特徴**
- 文化交流ができる**

## 地域と文化の象徴

**イベントを実施する！はずだったが...**

イベントを運営する予定であったが、コロナによる影響やイベントの開催にかかる費用や日程の調整、イベントを運営するうえでの課題の山積のため実施を断念することとなった。しかし、これまでの調査等を踏まえ、実施する予定だったイベントを、**仮想イベント**として、周知ポスターを作成し、ホールの良さを認知の拡大を図る。

## ホールの問題点

- 高齢者向け
- 学校関係以外でしか行かない
- 地元の人しか使わない
- 古臭い
- 厳粛なイメージ
- 行きたいイベントが少ない**
- 若者の使用率低下**

## 若者の関心が低い

## 参加したいイベント

- コンサート
- 楽器演奏会**
- ミュージカル
- ダンス
- パレエ
- コミケ
- フリーマーケット
- e-sports大会
- 科学講演
- トークショー**
- テレビ番組
- 文化祭**
- 市民イベント**
- 特産品販売会**
- 落語
- お笑い

## 高校生でも可能

## まとめ・感想

文化ホールへの関心が低いということが現状だが、興味があるイベントを実施するなどして、盛り上げていくことは可能である。コロナによる制約がかかる中、活動を制限しなければならず難しい研究となったが、よりよい文化ホールを目指して活動していくことができた。





愛媛県立  
松山東高等学校

# 四国新幹線は地域を救うのか

～四国新幹線開通後の未来を視る～

柏山道明 野澤先生講座

## 背景

★日本の新幹線不通地域は四国地方のみ

四国の動き

2010年代～ 新幹線誘致に向けた議論が活発化

2017年 四国新幹線整備促進期成会が設立

→ 四国に高速交通網が誕生すれば、大都市圏と四国が短時間で結ばれることとなる。



## 研究目的

①市民の四国新幹線の捉え方

・市民に新幹線は求められているのか

②四国新幹線の開通により生じる諸問題の解決

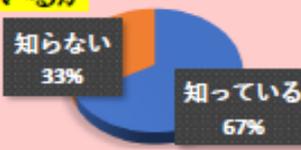
・新幹線開通後に形成される鉄道網では県内での中距離間の移動が不便になるのではないか  
・新幹線の沿線となる地域と沿線にはならない地域での間に生じる地域間格差を考える

検証① 新幹線通過予定都市と非通過都市でのアンケート調査  
新幹線が**通る**・・・新居浜市（新居浜駅前・40人）  
新幹線が**通らない**・・・今治市（今治駅前・36人）

新居浜市

Q 四国新幹線という構想を知っているか

今治市



Q 四国新幹線の建設に賛成か反対か



Q 四国新幹線が開通した場合、利用したいと思うか



→ 通過地である新居浜市の方が、肯定派が多い

検証② 新幹線開通後に形成される鉄道網について考える  
北陸新幹線の事例で検証

新幹線開通後、並行在来線はJRから経営分離され、県や市町、民間の出資のもと第3セクターとして経営される

①金沢ー富山間の場合

開通前 → 開通後

特急	上下78本 最速35分 料金2060～2570円	新幹線	上下85本 最速19分 料金2820～3330円
普通	上下56本 最速53分 料金950円	普通	上下57本 最速54分 料金1240円

②魚津駅(新幹線なし)の場合

開通前 → 開通後

上下36本	特急	なし
上下62本	普通	上下62本
6:03	始発	5:39
23:51	終電	23:54

★伊予北条駅の場合・・・

現在	特急	上下25本	→ ?
	普通	上下54本 360円	

## 考察

検証①より 四国新幹線が開通した場合、利用したいかどうかという質問では、新居浜市のほうが2割超今治市を上回った。これは、新幹線の沿線となることへの期待の表れともいえる。しかしどちらの地域でも新幹線建設反対派が3割を占めており、「たくさん利用は見込めないのではないか」といった懐疑的な意見も挙げられた。これが今日までの新幹線建設を抑制してきた一因といえるのではないだろうか。

検証②より 魚津駅は新幹線駅の狭間に位置するが、新幹線開通後、並行在来線の利便性は低下しているといえる。とくにネックな問題が料金で、金沢ー富山間では300円程度上増しされている。新幹線開通は地方と大都市圏を結ぶ広範囲の移動を自由にするが、新幹線を必要としない県内における狭い範囲の移動、例えば通勤や通学には料金の面から利用者を圧迫してしまうといえるだろう。

## 今後の研究

四国における新幹線開通後の第3セクターの線路使用料と鉄道貨物の関係について探る

## 参考文献

- 『新幹線は地域をどう変えるのか フォーラム新幹線学』 権引素夫 著 古今書院 2020年
- 『北陸新幹線レポリεύション』 藤澤和弘 著 交通新聞社 2015年
- 『新幹線で四国を変えよう！ ～新幹線を活かした四国の地域づくりビジョン調査報告書』 四国新幹線整備促進期成会ほか 2018年



愛媛県立  
松山東高等学校

# 東高 がんばっていきましょい ーグローバルからグローバルへの挑戦ー



## 目標 ・ 人材像

輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、  
人間的魅力のあるグローバル・リーダーの育成

- 地域マネジメント力を身に付け、郷土の課題解決に貢献する志を持った人材
- グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献する人材

## 令和2年度の取組

## グローバル明教

## 2年生 (GLコース80人)

### 1年生 (360人)

#### グローバル課題の発見

##### ・講演

「地域社会の持続可能な発展に向けて」  
「世界共通のゴール『SDGs』の達成に向けて」  
「企業の見方&地域産品のマーケティング」  
「いい、加減。まつやま」  
「レベゼン故郷！井の中の蛙 大海をゆく」等

##### ・講座

「笑顔のまつやま まちかど講座」  
全15テーマから2つを選んで受講

##### ・県内企業FW代替講演

三浦工業株式会社・株式会社アテックスより

##### ・海外FW代替交流

台湾三浦工業・三浦工業(中国)からの講演  
台湾國立中興大學附屬高級中學・  
北京月壇中學・UPIS(フィリピン)との交流

##### ・課題研究

「地域及び世界の持続的な発展のために」  
全20テーマに分かれて研究テーマを設定し、  
本校教員の指導のもとグループ研究を実施

##### ・研究成果発表会

グループごとにポスター(116枚)を作成し、  
ポスターセッションを実施



#### グローバル課題への取組

##### ・課題研究

「地域マネジメント力の育成」  
全13テーマに分かれて研究テーマを設定し、愛媛大学・松山  
大学・松山市・大分県立病院等の方々より指導を受け研究  
テーマ例  
「食品の調理加工研究と地域活性化への取組」  
「四国新幹線は地域を救うのか～四国新幹線開通後の  
未来を視る～」  
「未来の子どもたちのために～里親改革in the world～」  
「脱プラの広がりは可能か？」  
～企業からみる包装プラスチックの現状～

##### ・海外FW代替交流

UPIS(フィリピン)との交流

##### ・中間報告会・研究成果発表会

12月に中間報告会をポスター発表で実施  
3月に4グループに分かれてシンポジウムを実施



#### 学校環境のグローバル化

##### ・SGH部の取組

インターナショナルデー開催、市内高校生交流会実施  
フェアトレード啓発活動、海外高校生との交流、  
コンテスト・大会への参加

##### ・留学支援及び留学生受入

「トビタテ!留学JAPAN」説明会の実施  
留学生2人の受入



#### 課題研究のための資質能力の育成

##### ・East CLIL

松山東高校版内容言語統合型学習  
プレゼンテーション能力の育成

##### ・英語表現

使える英語力の育成



##### ・オンライン語学研修・オンライン交流

オーストラリア・アデレードIELTSスペシャルプログラム  
日本のリーダー養成塾  
アジア・オセアニア高校生フォーラム  
ロシア人日本語履修高校生オンライン交流



#### コンソーシアムの構築

##### ・愛媛大学との連携

課題研究講師、講演講師、保健講座講師派遣

##### ・松山大学との連携

課題研究講師

##### ・学習院大学との連携

講演講師



##### ・松山市との連携

未来のふる里産業人養成講座開講  
笑顔のまつやま まちかど講座実施  
松山市SDGs推進協議会参加  
課題研究講師、講演講師 等



##### ・企業・関係機関との連携

いよぎん地域経済研究センター 講師派遣  
三浦工業株式会社 講演会実施  
アテックス株式会社 講演会実施

##### ・他校との連携

中四国高校生会議、市内高校生交流会主催



## 成果

- 【OUT】学会・コンテスト・外部の発表会等に参加した生徒数の $\approx 94$ 人  
観光甲子園:11人 Glocal High School Meetings 2021:12人 国際理解生徒研究発表会:12人 探究甲子園2021:14人 他:35人
- 【IN】課題研究・講演等に外部人材が参画した人数の $\approx 451$ 人  
課題研究:320人 講演及び講座:61人 FW等その他:70人

